

「経営方針発表会」「決起大会」 時代の変化に柔軟に

マイシン

【愛知】マイシン（辻直樹社長、豊橋市）は8月30日、市内の豊橋サイエンスコアで今月からの第43期に向けた「経営方針発表会」および



辻社長

「決起大会」を開催。感染症対策から出席をリーダー・サブリーダーらに絞った会合には、全員がスーツ姿による「正装」で臨んだ。活力朝礼を経て辻社長が42期の振り返りと43期に向けた経営方針・計画を発表。

コロナの影響を受け、た今期を踏まえての新たな行動指針とともに、「安全」「売上」「人財」「労働環境」「設備投資」といった各テーマの動きに触れた上で、最後にはダーウィンの「唯一生き残ることが出来るのは、変化できる者である」との言葉を用いて、コロナ社会における気構えを説いた。

その後は大前智部長（営業本部・倉庫部）、菅嶋博部長（豊川営業所）、山田善治所長（浜松東営業所）、春日彰吾部長（一般部）、山田真理

子課長（総務部）、杉浦広史次長（管理部）らが登壇して各部門における力のこもった方針発表が行われ、さらにプロデューサー代表の高柳勝二氏による講演に加えてグループディスカッションなども実施。各グループから掲げられた来期に向けたテーマには、安全対策として今後重点が置かれることとなる「指差呼称」がさっそく盛り込まれるなど、意識の高さをうかがわせた。プログラムを終えて総評を述べた辻社長は、「みなさん

の『指差呼称』への姿勢に感謝したい。今日ここで発信してもらったことは会社の方針として、しっかりとドライバーに伝えてほしい」と力説。また、「日本社会も変わっていく。我々も変化していきましよう」と新たな時代における柔軟性に富んだ自社のあり方にも言及し、さらに初めて参加者全員が「正装」での出席となった点に関しては、「社長になってからの悲願でもあったので、感無量」との感想を述べた。

（朝妻聖一）